



(4,000)

実用新案登録願 (1)

昭和 55 年 5 月 30 日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿

1. 考 案 の 名 称

フソ 噴霧器

2. 考 案 者

住 所 ^{ナニグンイツ カ イチマチナツキ ガ オカ} 広島県佐伯郡五日市町五月ヶ丘
氏 名 4丁目21番地3号

吉 実 弘 (ほか2名)

3. 実用新案登録出願人

住 所 ^{カン グ ミクラチヨウ} 東京都千代田区神田美倉町11番地

名 称 フマキラー株式会社

代表者 ^{オカ シロフ} 大 下 高 明

4. 代 理 人

住 所 東京都港区虎ノ門一丁目5番16号
~~東京都港区芝罘三丁目3番地~~ 晩翠ビル

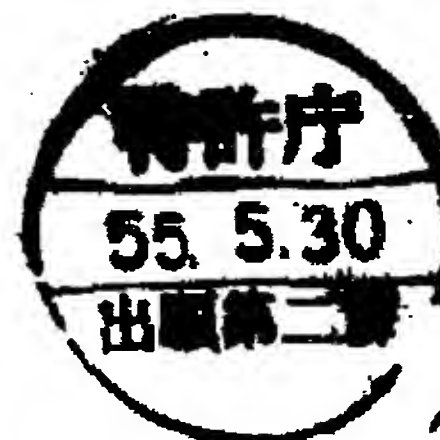
氏 名 (7146) 米 原 正 章 (ほか1名)

電話東京(03)504-1075~7番

5. 添付書類の目録

✓ (1)	明 細	書	1 通
✓ (2)	図	面	1 通
✓ (3)	委 任	状	1 通
(4)	願 書 副	本	1 通

✓ 55 073831



方 式 査 査



176070



明 細 書

1. 考案の名称

噴霧器

2. 実用新案登録請求の範囲

噴霧すべき薬剤などが収容され、かつ頭部に設けた噴霧頭 2 を押圧することにより、内部の薬剤などが上記噴霧頭 2 の噴霧口 2 a より噴霧できるようにした容器本体 1 の上記噴霧口 2 a に、弾性を有するパイプ状のノズル 3 の基端側を取付け、かつこのノズル 3 の基端側に折曲げた状態のノズル 3 を使用位置に復元可能なばね 4 を設けると共に、上記容器本体 1 の頭部に嵌着したキャップ 5 または噴霧頭 2 の一部に上記ノズル 3 を格納状態に係止する係止手段を設けてなる噴霧器。

3. 考案の詳細な説明

この考案は殺虫剤などの薬剤をノズルを介して噴霧する噴霧器に関する。

従来殺虫剤などの薬剤を噴霧する噴霧器は噴霧口より直接噴霧しているため、薬剤が広い範



図に拡散して、例えば局部的に薬剤を噴霧するような場合効果が少ない。そこで従来からも噴霧口に細いパイプ状のノズルを取付けて薬剤が局部に集中的に噴霧できるようにしたものなども提唱されているが、ノズルを着脱する際、ノズルに付着した薬剤などが手や衣服に付着したり、また取り外したノズルを紛失するなどの不具合があつた。

この考案はかかる不具合を改善する目的でなされたもので、噴霧口に取付けたノズルがばねの反発力で使用位置に保持できると共に、不使用時には上記コイルばね部分より彎曲させることによりコンパクトに収納できるようにした噴霧器を簡単な構成で提供しようとするものである。

以下この考案を図示の一実施例について詳述する。図において1は噴霧すべき薬剤などを収容した容器本体で、円筒状をなしており、上部側は縁部1aより順次小径となるようにくびれており、くびれ部1bの上端に口縁1cが形成



されていると共に、口縁 1 c を閉塞する端板 1 d の中心部より上方に噴霧頭 2 が突出されている。上記噴霧頭 2 は周面に噴霧口 2 a を有していて、噴霧頭 2 を指などで押圧することにより容器本体 1 内に設けられた弁（図示せず）が開放して、容器本体 1 内の薬剤などが封入ガスとともに噴霧口 2 a より噴出されるようになっていると共に、噴霧口 2 a にはノズル 3 の一端側が嵌着されている。ノズル 3 は弾性のある樹脂などによって細いパイプ状に形成されており、基端側、すなわち噴霧口 2 a 側には上記ノズル 3 を曲げた場合でも、これを離すと同時にもとの水平位置にまで復元可能なばね力を有するコイルばねなどのばね 4 が嵌挿されており、ばね 4 の一端は噴霧口 2 a 側に固着されて移動しないようになっている。

またノズル 3 の先端側は上記容器本体 1 の縁部 1 a に嵌着されたキャップ 5 の開口部 5 a よりキャップ 5 外方へ突出されている。キャップ 5 は上面の中央から周縁部にかけて上記噴霧頭



2 を押圧するための凹部 5 b が、また開口部 5 a 側の周面に、開口部 5 a の下側に位置して係止部 5 c が形成されている。係止部 5 c は中央部に上記ノズル 3 が挿通可能な透孔 5 d と、ノズル 3 の外径よりやや幅狭な切欠 5 e を有する板状の突起であつて、不使用時ノズル 3 の先端側を切欠 5 e より透孔 5 d 内へ押込むことにより、ノズル 3 を容器本体 1 の外周面に沿つて格納できるよつになつてゐる。

しかして第 1 図に示すノズル 3 の格納状態から、使用時ノズル 3 を係止部 5 c より外すと、ノズル 3 は基端側に嵌挿したばね 4 の復元力でノズル 3 は第 3 図に示すように水平状態となる。従つてこの状態でノズル 3 の先端を薬剤などを噴霧すべき孔や隙間などに挿入して噴霧頭 2 を押圧することにより、薬剤などを局部に集中して噴霧することができるよつになる。

なお第 4 図及び第 5 図に示すようにキャップ 5 の周面に、ノズル 3 及び係止部 5 c を挟み込むよつに保護リップ 5 f を突設してもよい。また



キャップ 5 を取外して使用する噴霧器の場合は、第 6 図または第 7 図に示すように噴霧頭 2 と別体または一体に鉤状の係止部 6 を設けてノズル 3 先端を係止してもよい。さらに第 8 図に示すように噴霧頭 2 の頂部または側部にノズル 3 の先端側が圧入できる凹溝 2 b を設けてノズル 3 を破線で示すように収納してもよく、また第 9 図及び第 10 図に示すように、噴霧頭 2 を大型にして上面に長手方向に沿つて凹溝 2 b と押圧部 2 c を形成し、凹溝 2 b の内側にはストツパ 2 d を突設して、このストツパ 2 d に抗して凹溝 2 b 内にノズル 3 の先端を圧入することにより、ノズル 3 を格納するようにしてもよく、格納状態でも噴霧頭 2 を押圧すればノズル 3 の先端より薬剤などが噴霧されるので、普通の薬剤などを拡散して噴霧する噴霧器として使用できる。なおばね 4 はコイルばねに限らず第 11 図に示すようなつる巻きばねなども利用できるものである。

この考案は以上詳述したように、噴霧口に設

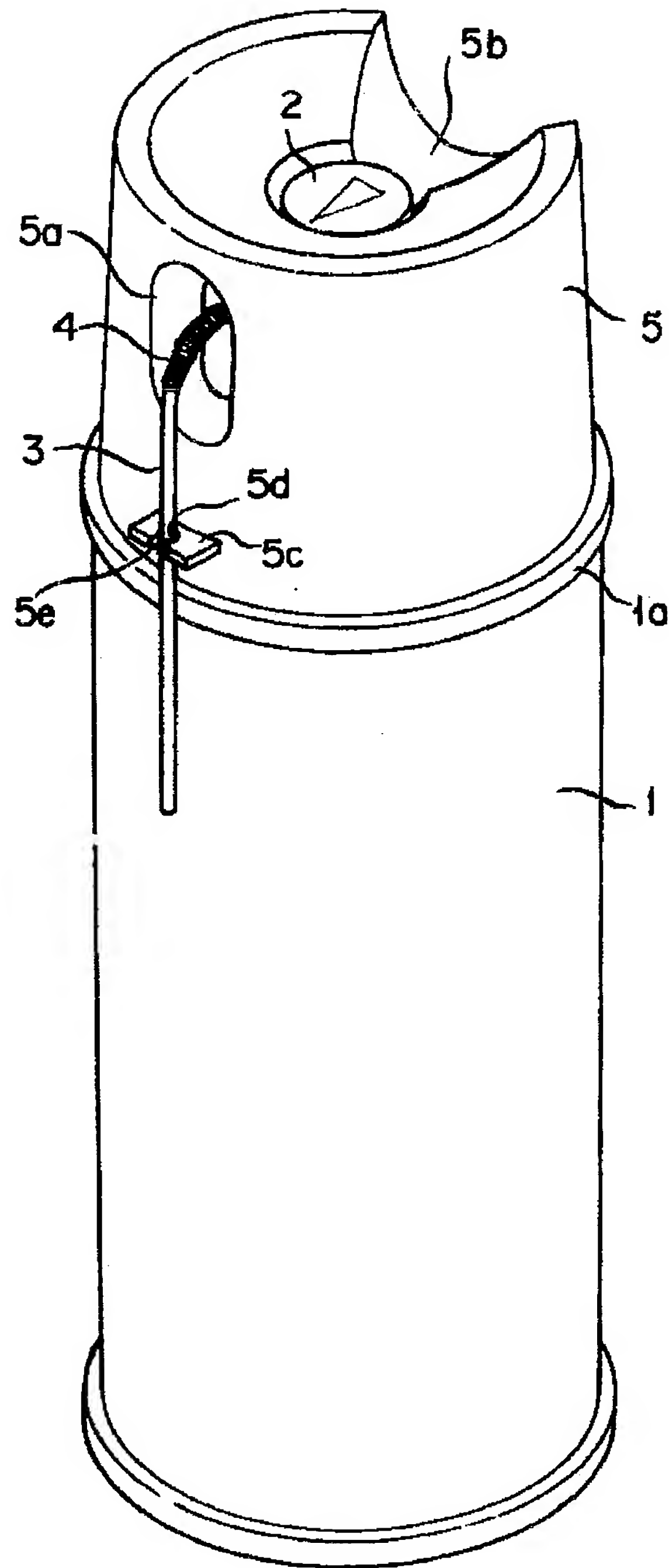
けたノズルの基端側に、ノズルを使用位置に復帰するばねを設けたことから、使用時にはノズルの先端に係止部より外すだけで使用でき、従来の噴霧口にノズルを着脱するもののように、手や衣服を薬剤などで汚損したり、ノズルを紛失するなどの虞れがないと共に、不使用時にはコンパクトにノズルが折畳めるので、保管する際ノズルが邪魔になつたり、破損されるなどの心配もない。

4. 図面の簡単な説明

図面はこの考案の一実施例を示し、第1図は斜視図、第2図は縦断面図、第3図は使用状態の断面図、第4図は他の実施例の斜視図、第5図は同断面図、第6図、第7図、第8図及び第9図も他の実施例の説明図、第10図は第1図に示す噴霧頭の斜視図、第11図はばねの他の実施例を示す斜視図である。

1は容器本体、2は噴霧頭、2aは噴霧口、3はノズル、4はばね、5はキャップ。

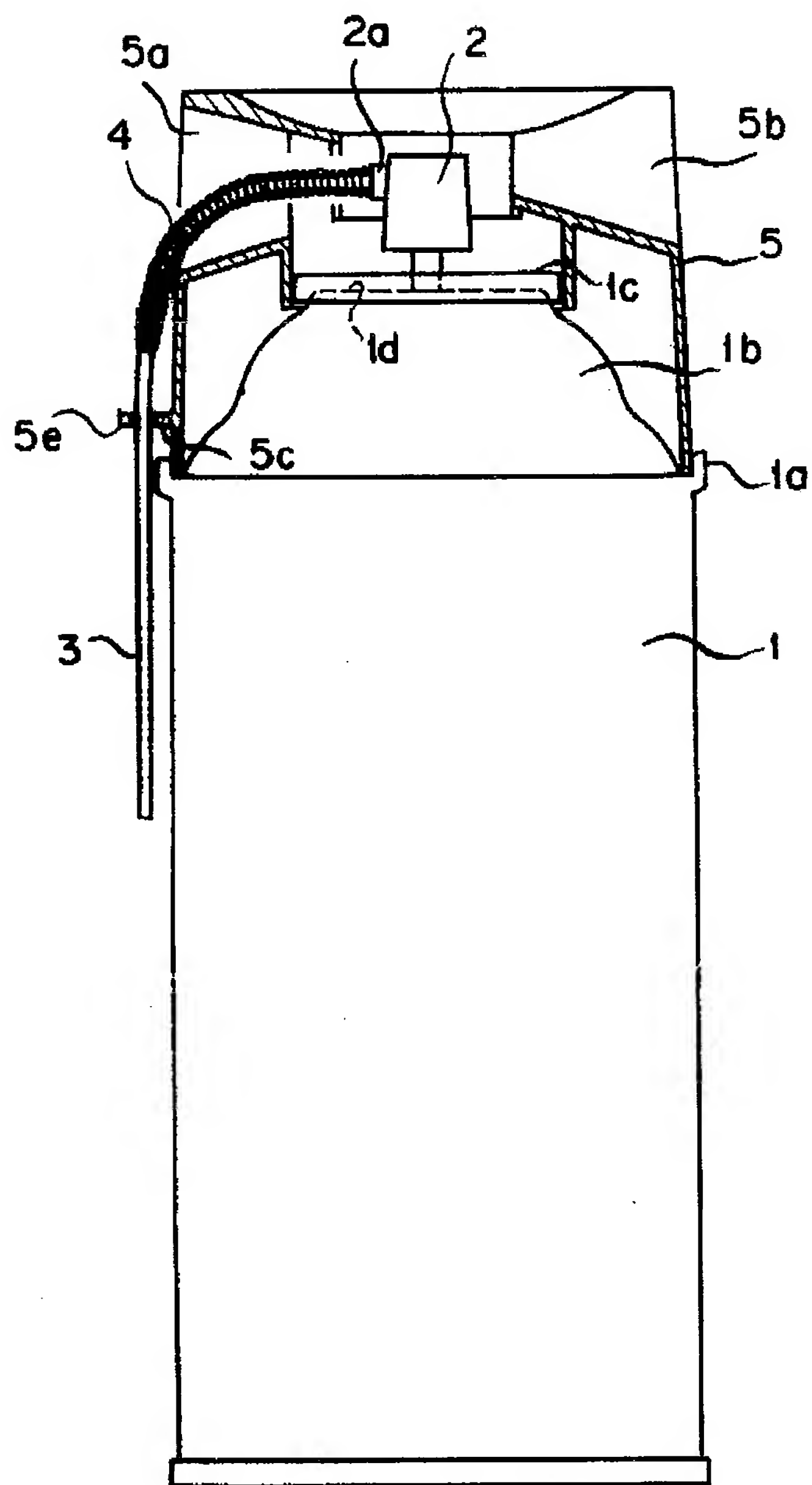
第 1 図



176070 1/10

出 願 人	フマキラー株式会社
代 理 人	弁理士 米 原 正 章 外 名

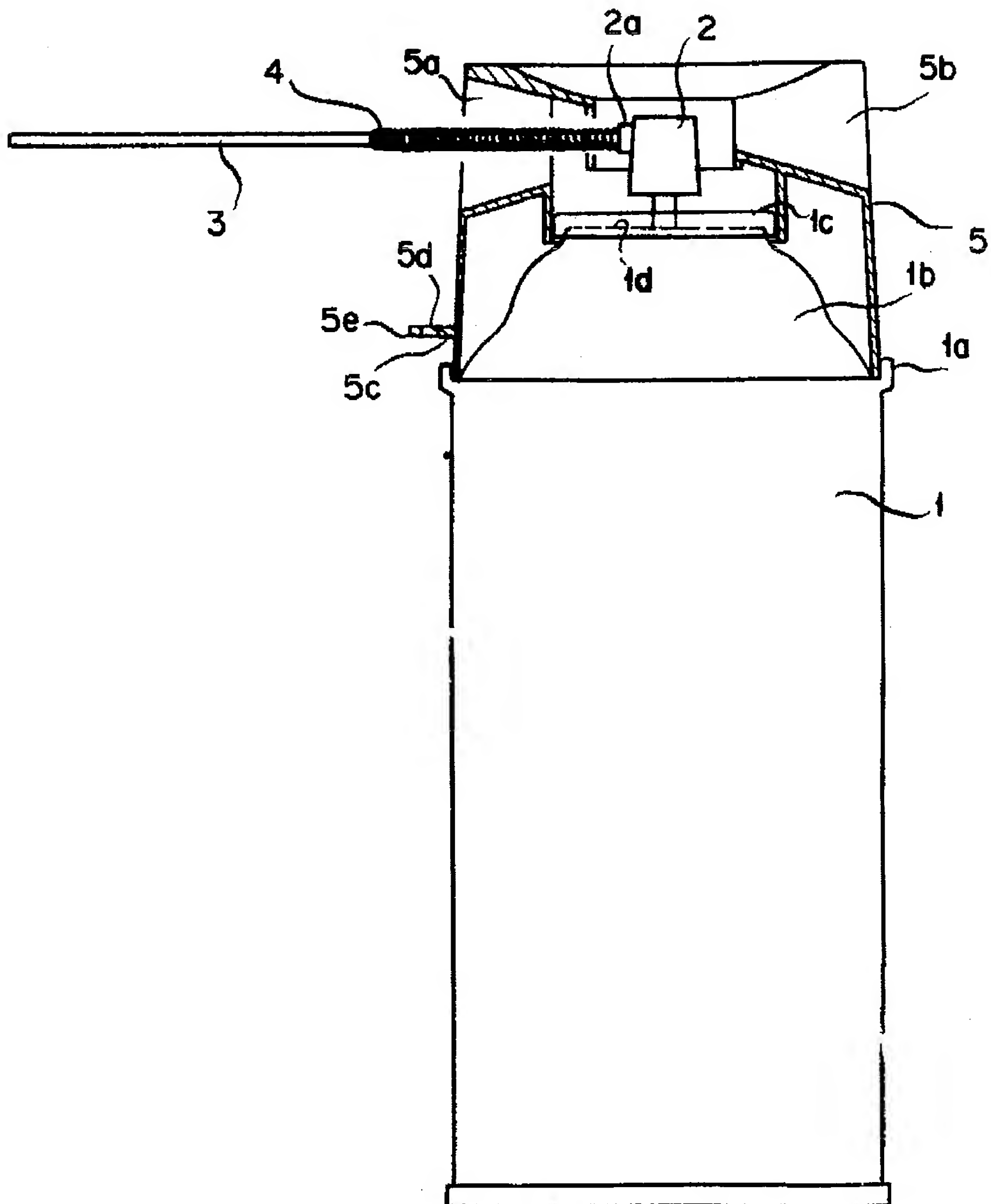
第 2 図



176070^{2/10}

出願人	フマキラー株式会社
代理人	弁理士 米原正章 外1名

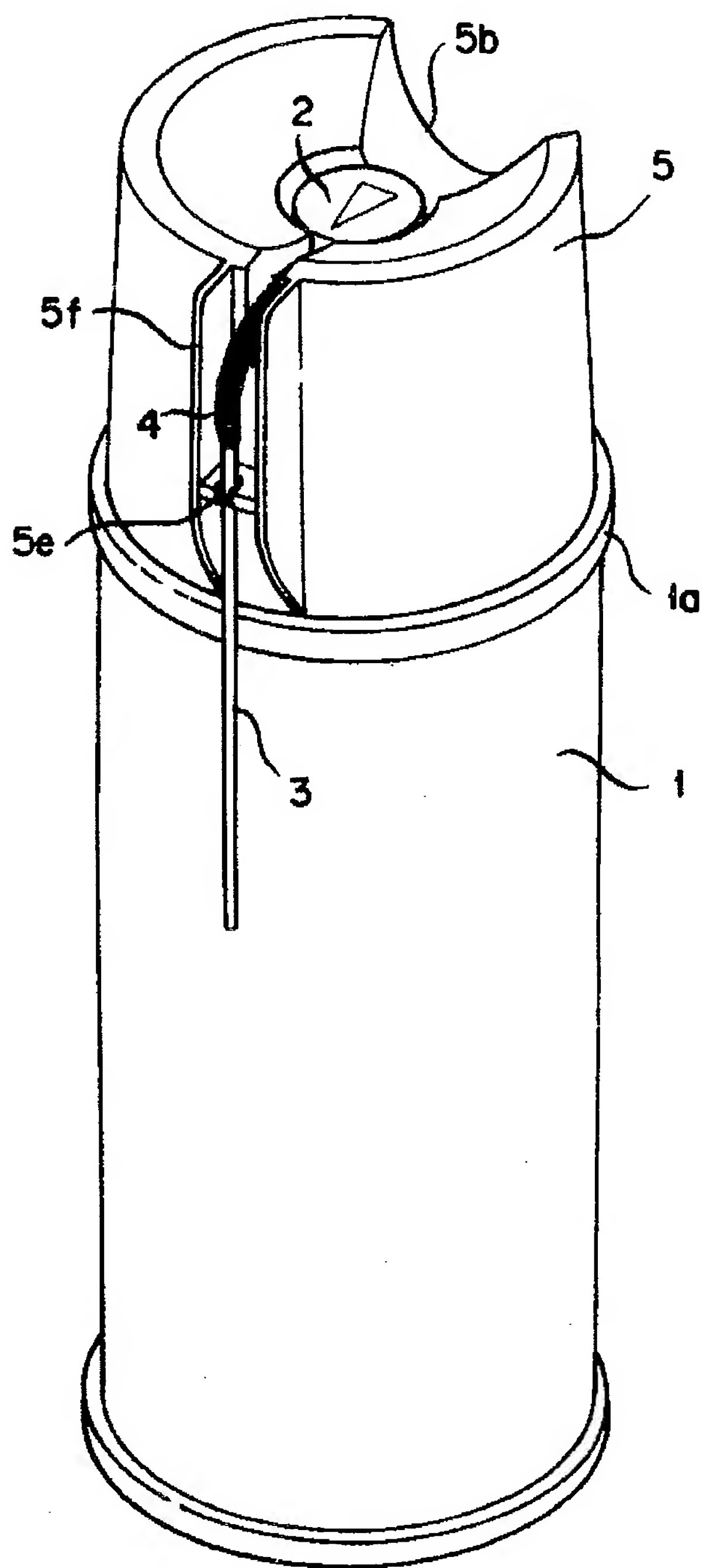
第 3 図



出 願 人	フマキラー株式会社
代 理 人	弁理士 米 原 正 章 外1名

176070 3/10

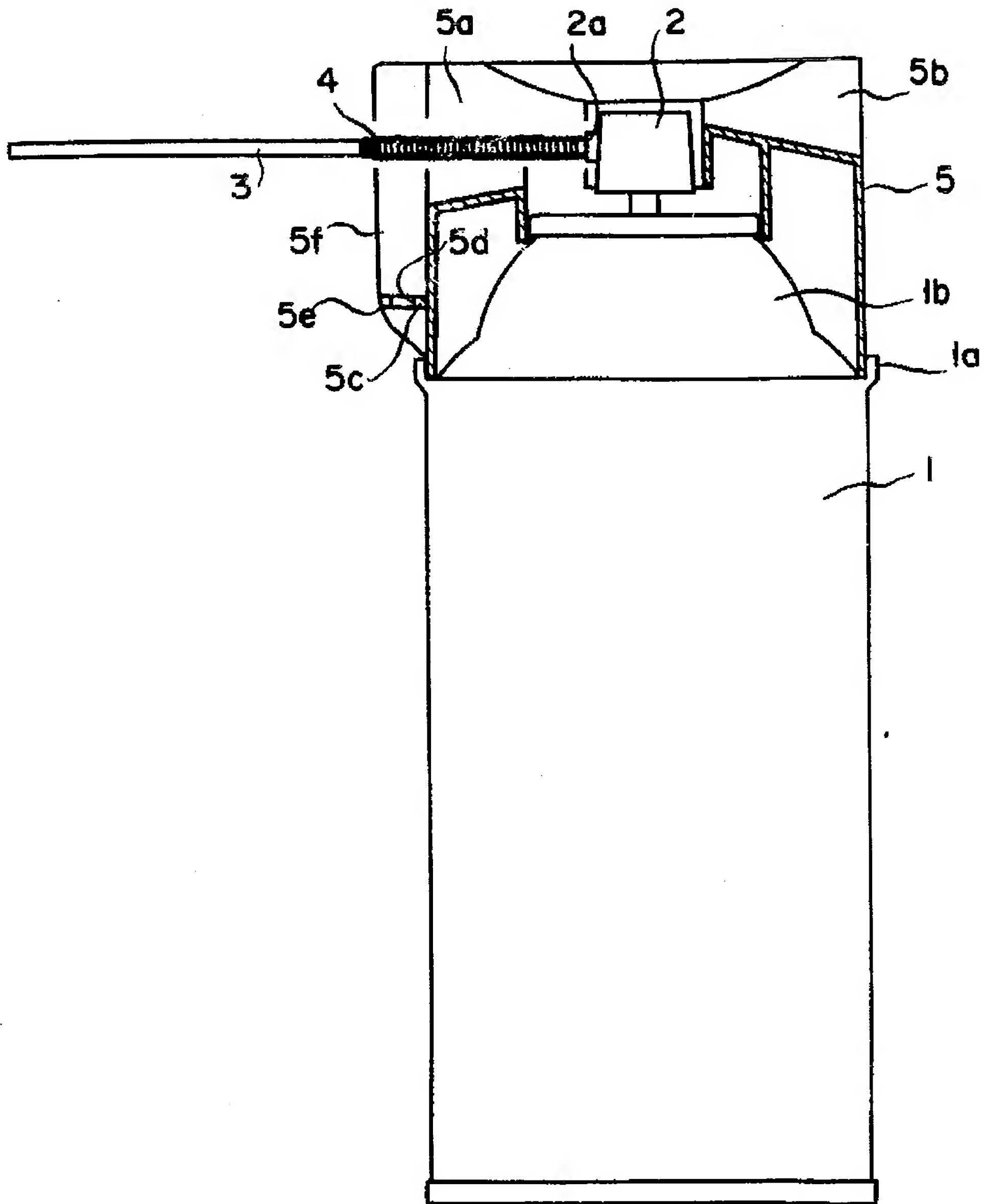
第 4 図



176070 4/10

出願人	フマキラー株式会社
代理人	弁理士 米原正章 外1名

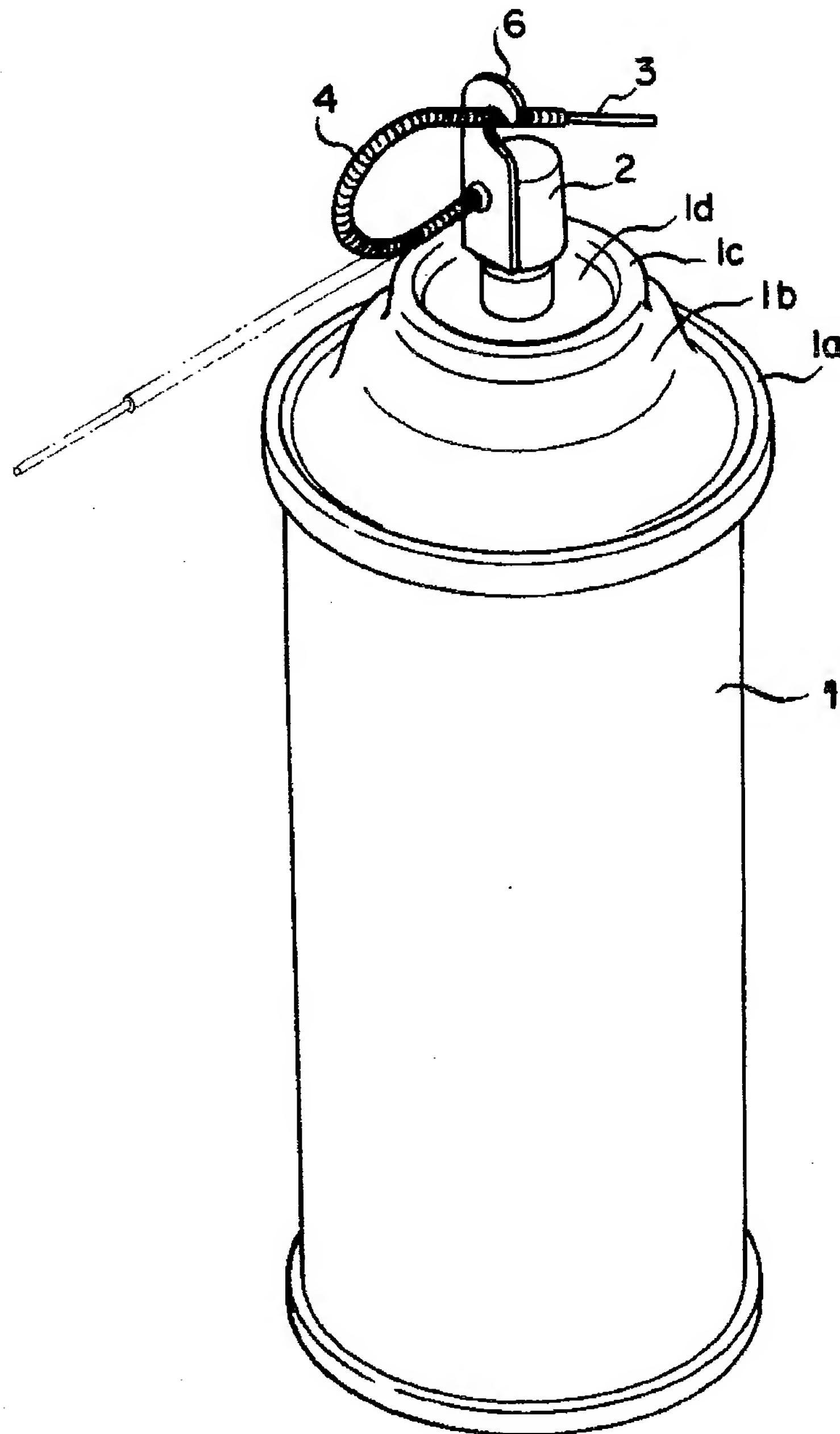
第 5 図



1760705/10

出 願 人	フマキラー株式会社
代 理 人	弁理士 米 原 正 章 外1名

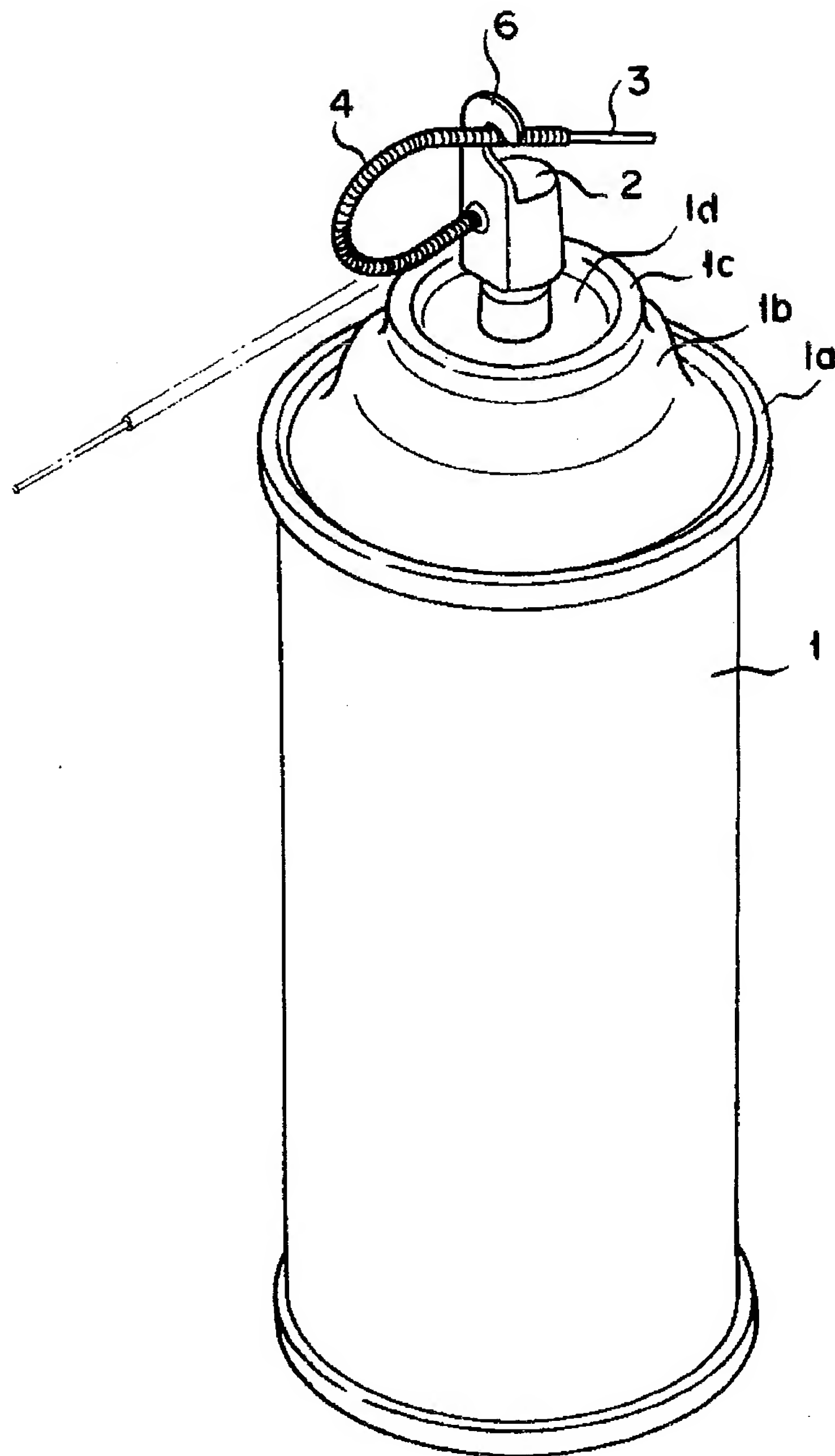
第 6 図



176070 6/10

出願人	フマキラー株式会社
代理人	弁理士 米原正章 外1名

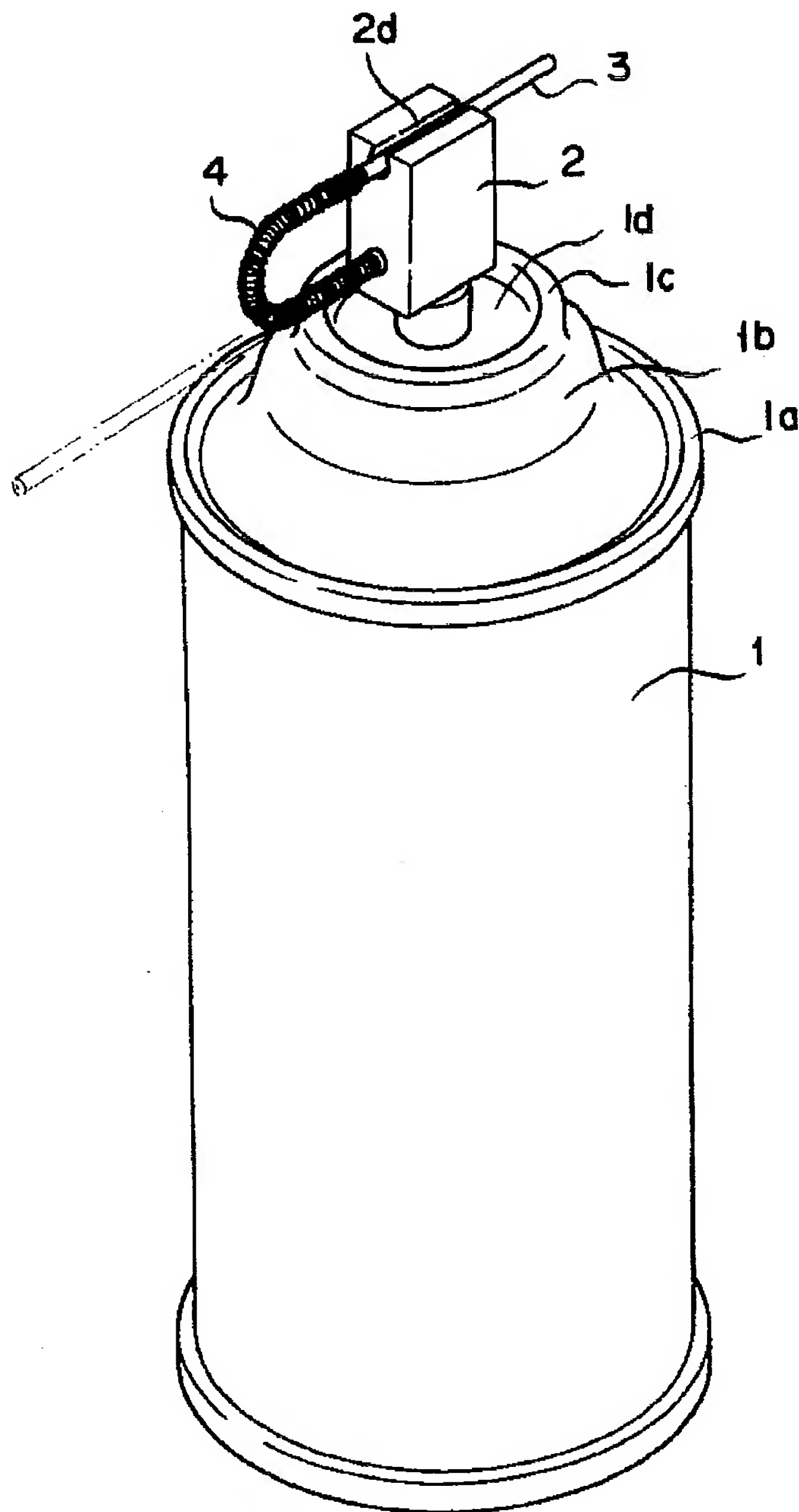
第 7 図



1760707/10

出願人	フマキラ-株式会社
代理人	弁理士米原正章外1名

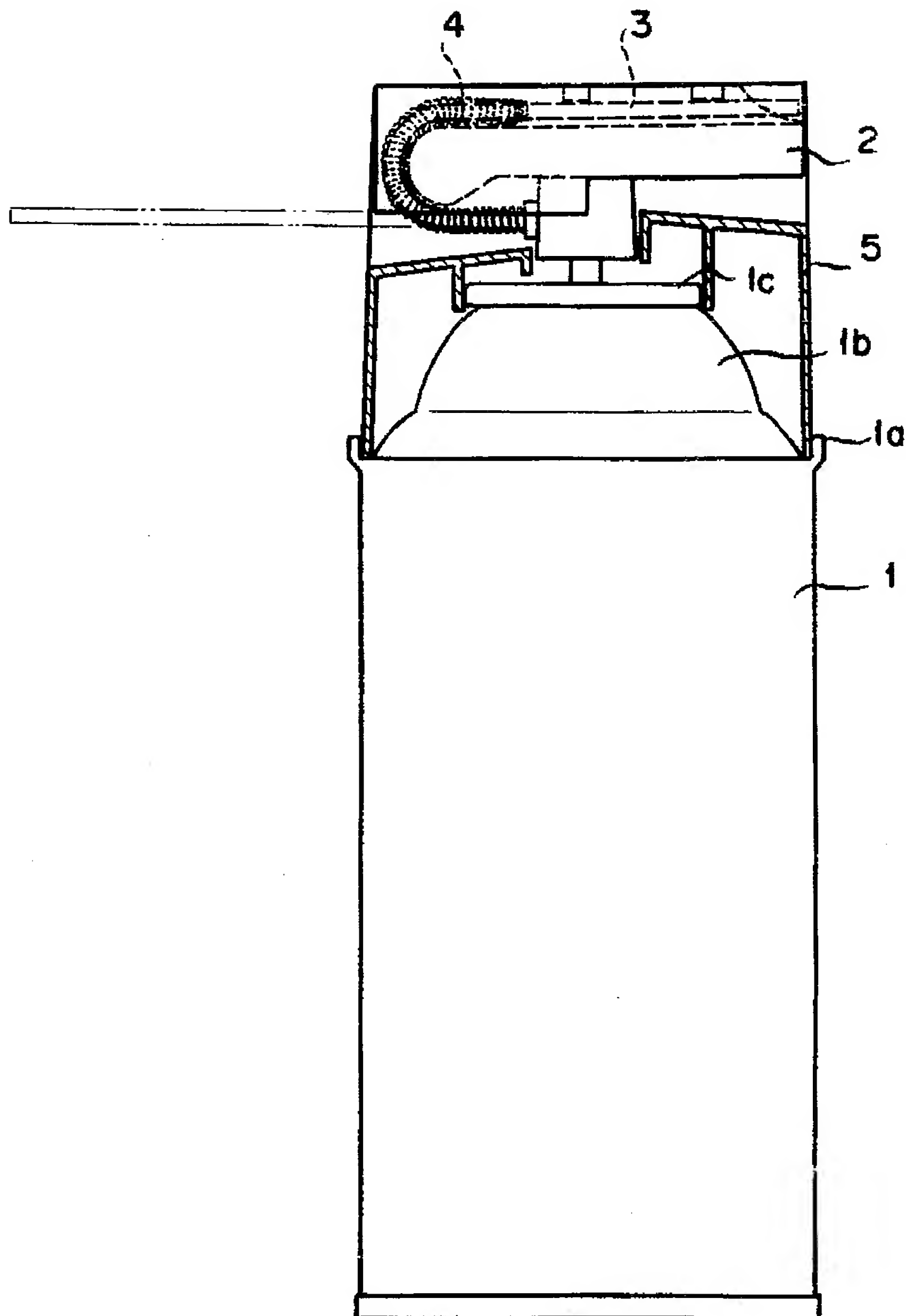
第 8 図



176070 8/10

出願人	フマキラー株式会社
代理人	弁理士 米原正章 外1名

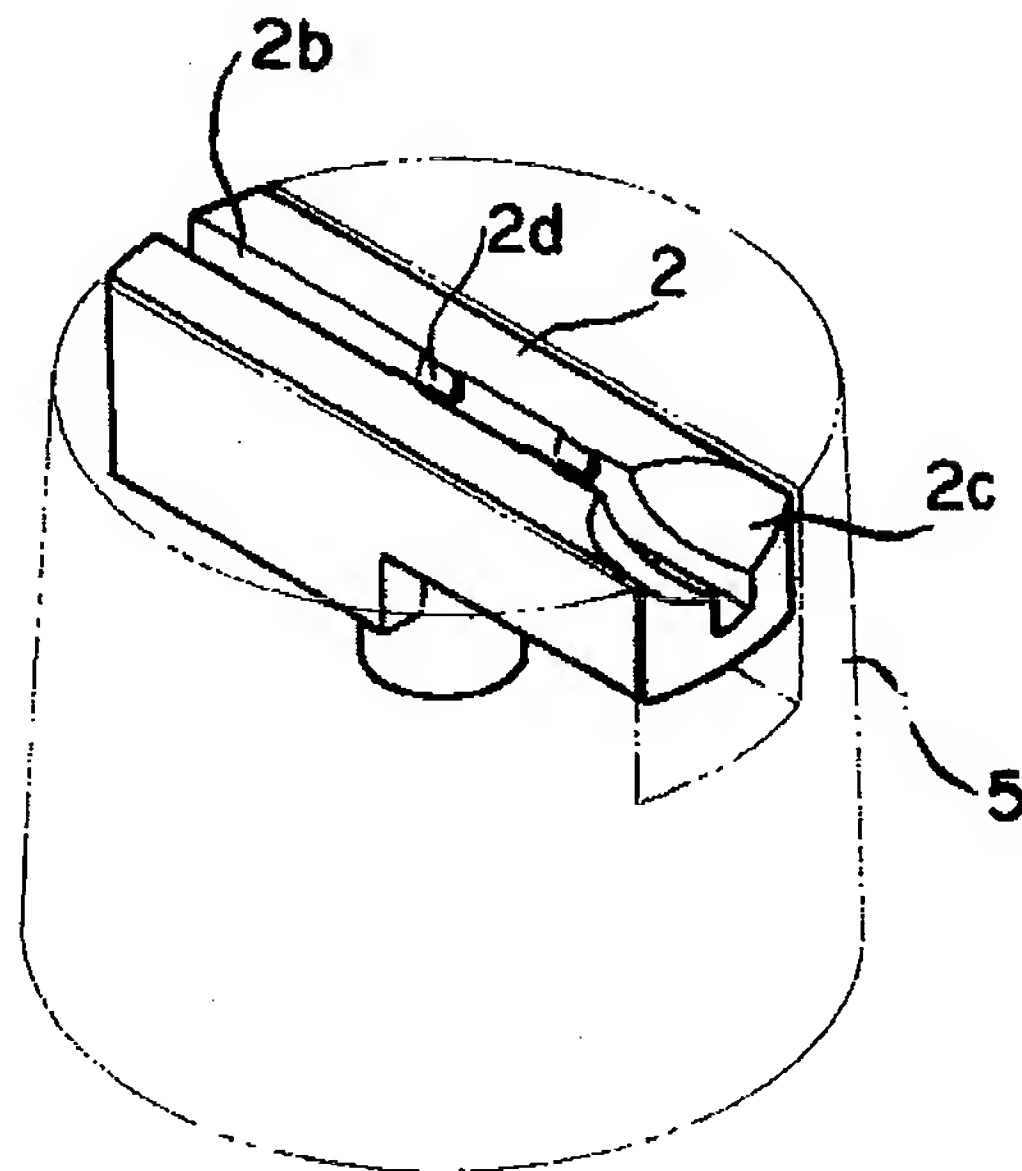
第 9 図



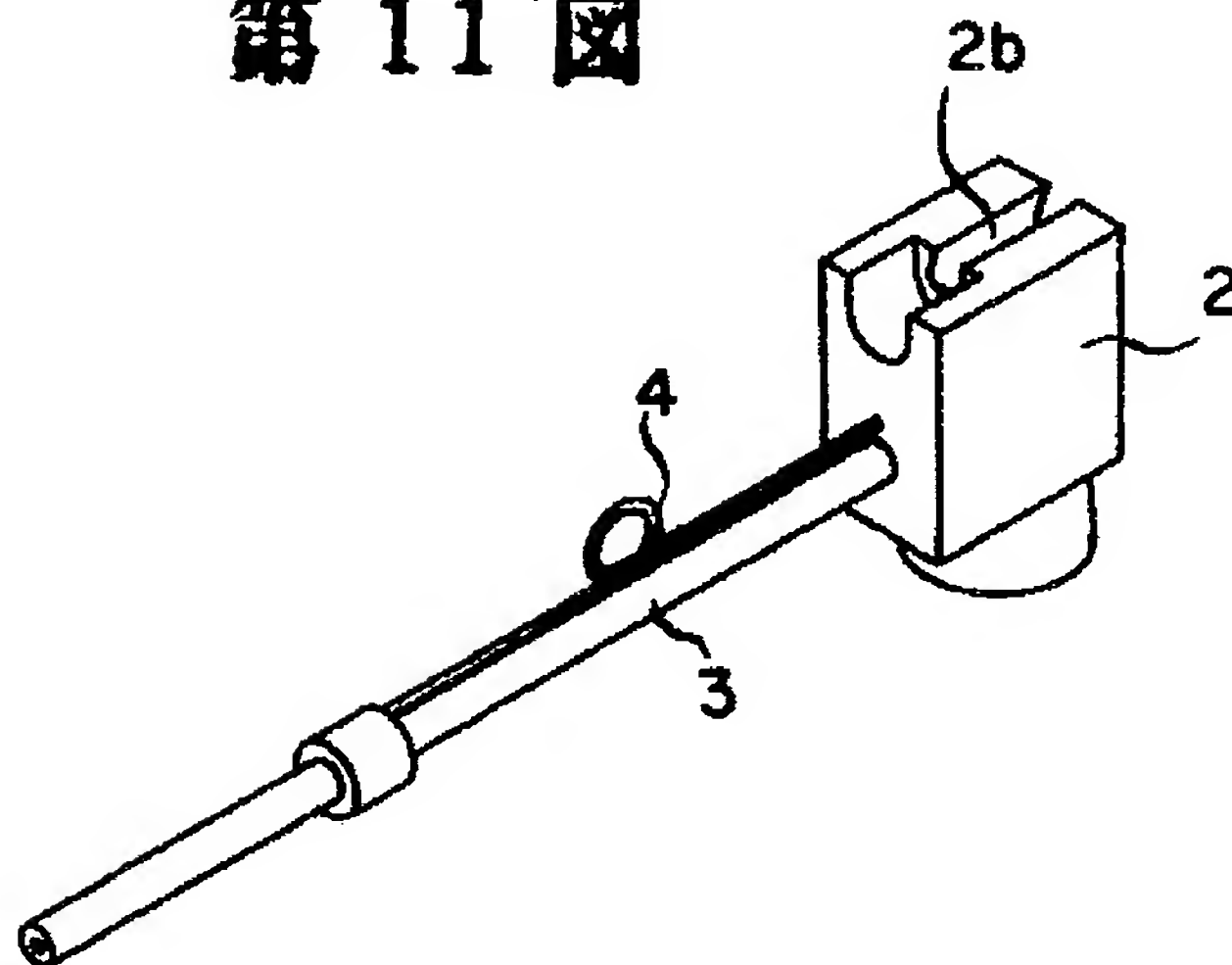
78020 9/10

出 願 人	フマキラー 株式会社
代 理 人	弁理士 米 原 正 章 外 1 名

第 10 図

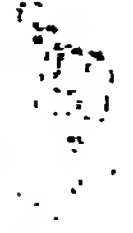


第 11 図



10/10

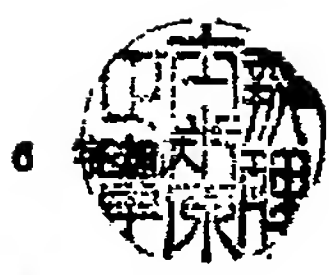
出願人	フマキラー株式会社
代理人	弁理士 米原正章 外1名



考案者および

6. 前記以外の代理人

(1) 考案者



住所 広島県佐伯郡廿日市町廿日市 783 番地 1 号

氏名 内 田 則 夫

住所 広島県佐伯郡五日市町薬師ヶ丘 3 番地 9 号

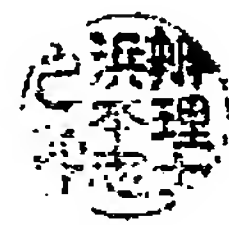
氏名 山 本 志 延

(2) 代理人

住所 東京都港区虎ノ門一丁目 5 番 16 号
 晩翠ビル

電話東京 (03) 504-1075 ~ 7 番

氏名 弁理士 (7381) 浜 本 忠



176070